

所 在 地 宮城県黒川郡大衡村大衡字亀岡
立地環境 吉田川支流の埋川・善川に挟まれた、
 25～35 mの台地上
発見遺構 掘立柱建物、竪穴建物、土器焼成遺構
年 代 9世紀初頭

遺跡の概要

亀岡遺跡は、吉田川支流の埋川と善川に東西を挟まれた合流点付近に位置し、大松沢丘陵から派生した丘陵末端、標高 25～35 mの台地上に立地している（第1図）。南東約 3 km の場所には 7 世紀後葉～8 世紀前半頃の囲郭集落および 8 世紀後半～9 世紀初頭の黒川郡衙と推定されている一里塚遺跡が、その 0.3 km 西には平安時代の製鉄遺構が検出された天王寺遺跡がある。また、北約 4 km には大衡窯跡群、北約 5 km には多賀城創建期の瓦や須恵器を生産した日の出山窯跡群がある（第2図）。

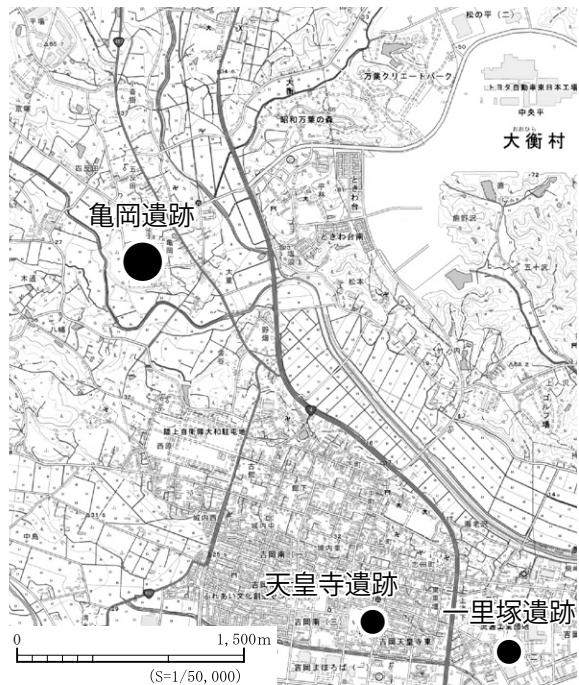
これまでの 4 次にわたる調査により、掘立柱建物 8 棟、竪穴建物 5 棟、竪穴遺構 4 基、焼成遺構 1 基が検出され、特に 9 世紀初頭の建物群が有力者居宅として考えられている（菅原 2008）。

居宅域の構造と出土遺物

調査では、一辺 7 m 以上の大型竪穴建物 SI2 が検出され、その東側に 2 間 × 3 間の東西棟掘立柱建物が 4 棟（SB2・3・5・6）、2 間 × 2 間の南北棟掘立柱建物 1 棟（SB1）が発見されている（第3図）。西側には 2 間 × 2 間の縦柱建物 SB4 が検出されており、これとほぼ同方向・同規模の建物が北側で 2 棟（SB20・21）検出されている。このうち、南側に廂をともなう東西棟 SB3 が主屋、その東・南にあり主屋と規模の近い 4 棟の掘立柱建物が副屋、南西にある大型竪穴建物 SI2 が竈屋と考えられ、SB4・SB20・SB21 からなる方形の掘立柱建物が倉庫にあたるとみられる。

また、西側には外延溝をともなう竪穴建物が 2 棟ある。北側の SI1 からは鉄製の鎌や鋸（註1）、砥石等の遺物が出土している。南側の SI11 は建物の南辺に並行して 2 間の柱列があり、東北地方北部などに多くみられる竪穴建物と掘立柱建物が接続し一体となる構造の「竪穴・掘立柱併用建物」と考えられている（高橋 2015）。2 つの建物は何らかの工房等であったと推測される。さらに、主屋の南では土師器焼成遺構 SK3 が検出されており、平面確認までに留まるが第4次調査の焼成遺構 SK23 も類似の遺構と推測される。これらも居宅内での生産活動をうかがわせる資料であるといえよう。

出土遺物で特徴的なのが土器に占める須恵器の割合が高い点である。その中には稜塊・双耳壺・高壺・盤などがあるほか、円面鏡も出土しており、第1次調査で出土した銅製鎗帶金具（巡方）とともに、一般集落とは異なる官的要素を認めることができる。このほか、仏器である水瓶や花瓶、「口上 □（家か）」と墨書きされた須恵器壺などが出土している（第4・5図）。



第1図 亀岡遺跡の位置

亀岡遺跡と大衡窯跡群

須恵器の割合が高いこと、官的な器種が認められる事とともに、須恵器の同器種と器形・大きさ・製作技法が同じ土師器坏・稜塊の出土も注目される。また、須恵器の中には、窯壁が付着したものや焼成不良のものも認められる。これら出土遺物の様相から、居宅主に対しては窯業との関わりが想定され、遺跡の北約4kmに所在する大衡窯跡群との関連性が指摘されている（大衡村 1995、菅原 2008、村田 2022）。

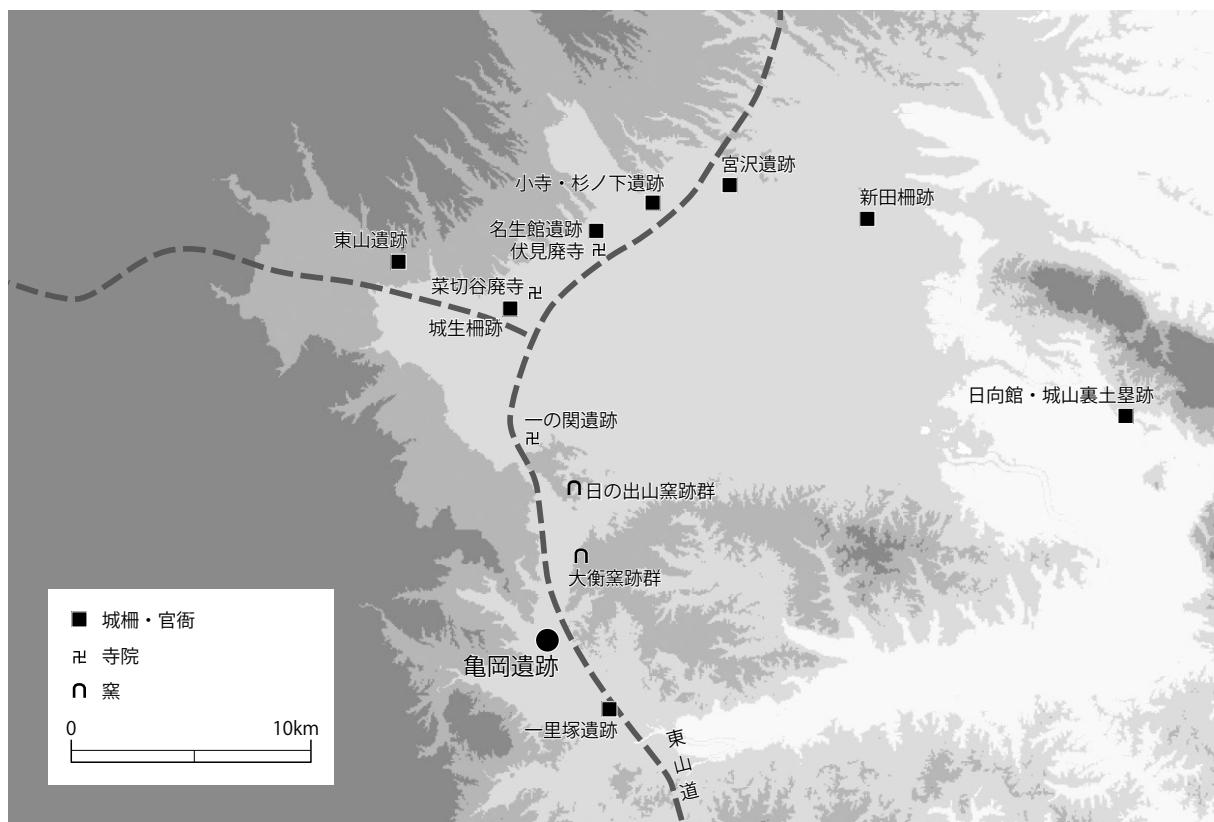
大衡窯跡群は、彦右エ門橋窯跡・萱刈場窯跡・吹付窯跡などからなる県内有数の窯跡群で、8世紀中頃から9世紀後半にかけて須恵器を中心に生産を行っていたと考えられている。近年、このうち彦右エ門橋窯跡が調査され、黒川以北十郡西側の城柵・官衙・寺院などに供給する須恵器・瓦を生産していたことが明らかになった（宮城県 2018・2019）。出土した須恵器には、高坏・盤・円面硯・風字硯・双耳坏・水瓶などが含まれる。また、土師器焼成遺構が多数検出され、須恵器窯に近接して土師器製作も行われていたと考えられている。これは、亀岡遺跡の土師器を製作した集団が須恵器製作技術と密接な関係があったとする想定（大衡村 1995）とも対応し、亀岡遺跡と大衡窯跡群との関連が強く意識される。

以上のことから、亀岡遺跡の建物群は、大衡窯跡群における窯業生産やその製品流通に関わる有力者の居宅であったと想定される。黒川郡衙と推定されている一里塚遺跡と大衡窯跡群の中間に位置し、両遺跡とともに古代東山道のルート沿いに立地する亀岡遺跡は、大崎平野西部の地域経営に重要な役割を果たしたと考えられる。ただし、遺物は9世紀初頭にほぼ限られるため、居宅としての存続は短期間であったとみられる。

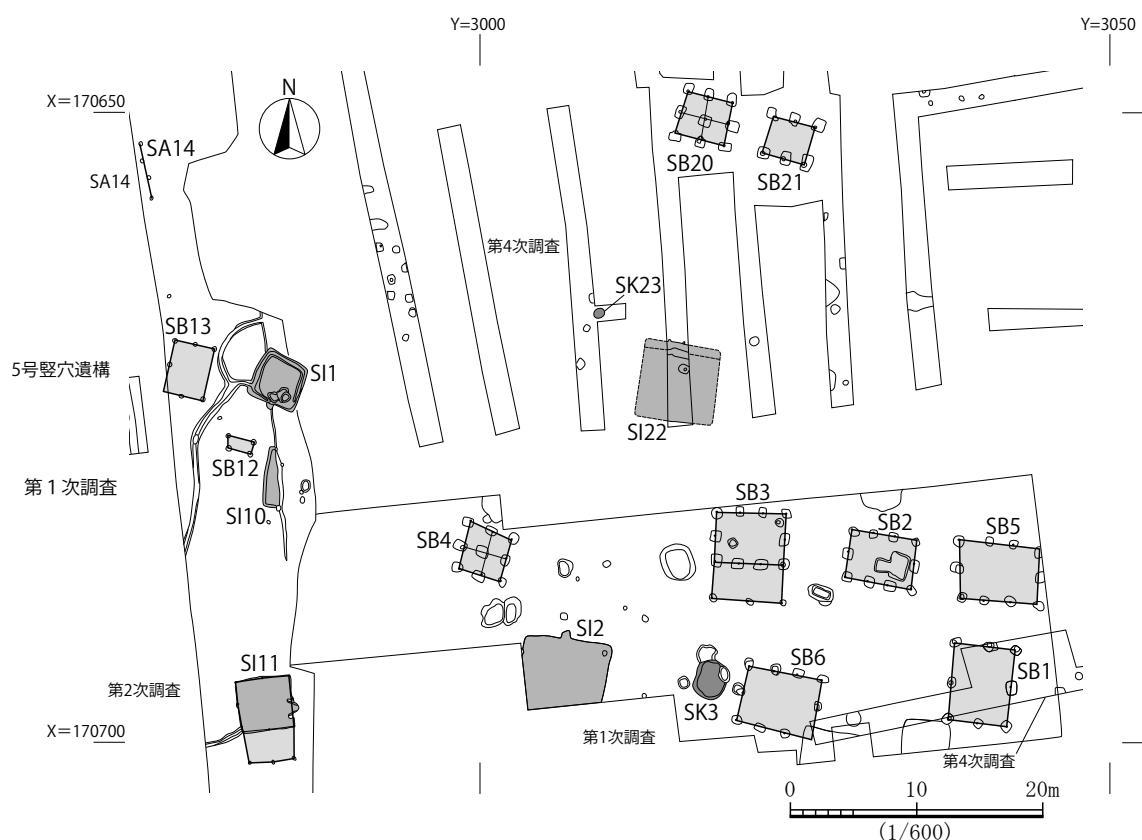
註1 古代の鉄製鋸は、宮城県内では大崎市の新田柵跡SI73b堅穴建物に出土例がある（田尻町 1998）。

関連文献

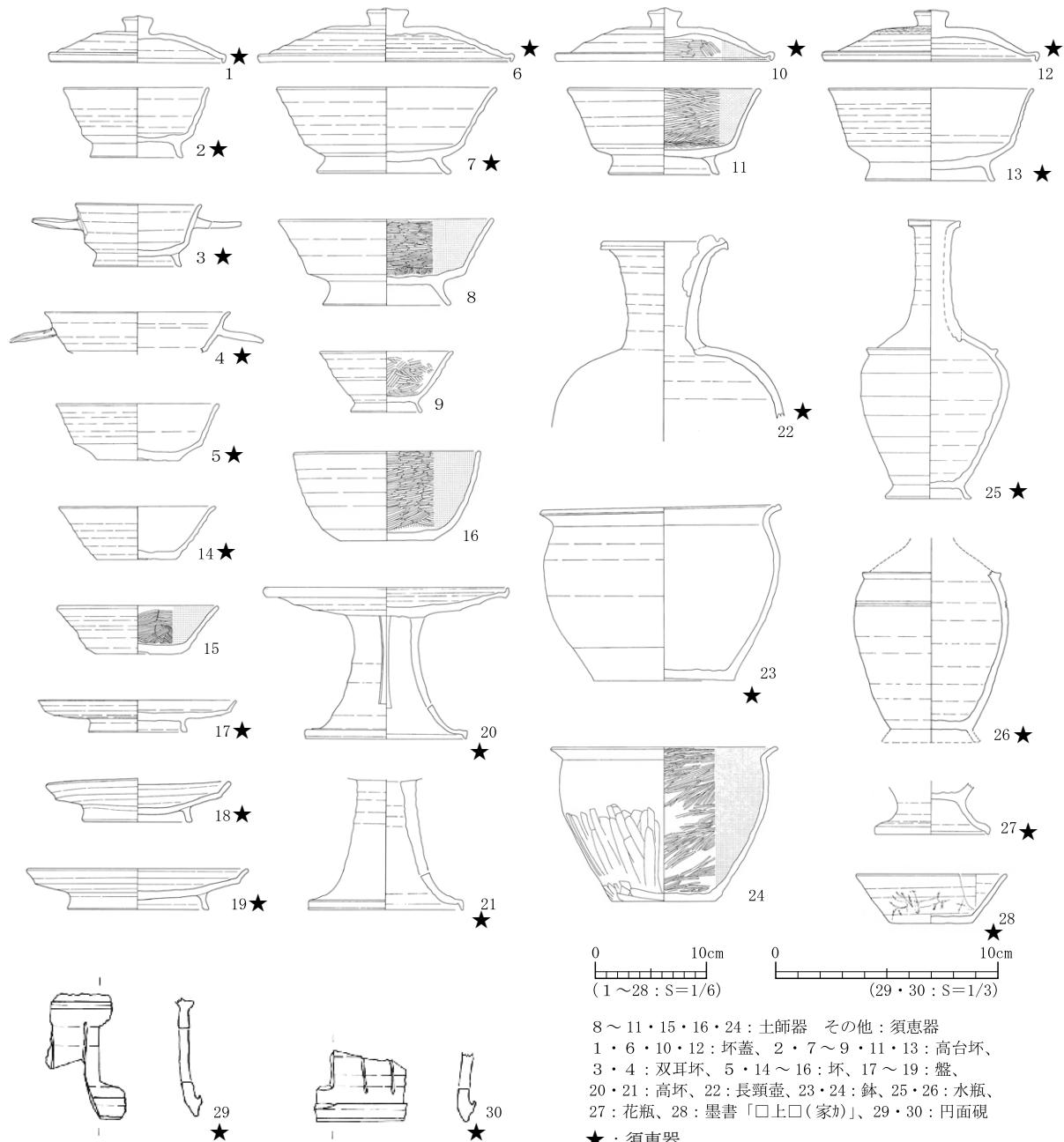
- 大衡村教育委員会 1995 『亀岡遺跡』 大衡村文化財調査報告書第1集
大衡村教育委員会 2019 『亀岡遺跡・萱刈場窯跡ほか』 大衡村文化財調査報告書第5集
菅原祥夫 2008 「東北の豪族居宅（補遺）」『蔵王東麓の郷土史－中橋彰吾先生追悼論文集－』
高橋 学 2015 「堅穴・掘立柱併用建物の成立と展開」『北奥羽の古代社会』高志書院
田尻町教育委員会 1998 『新田柵跡推定地』 田尻町文化財調査報告書第3集
東北学院大学考古学研究部 1979 「亀岡遺跡発掘調査報告」『温故』第12号
宮城県教育委員会 1996 「亀岡遺跡」『下草古城ほか』宮城県文化財調査報告書第169集
宮城県教育委員会 2018 「彦右エ門橋窯跡」『令和元年度宮城県遺跡調査成果発表会資料』
宮城県教育委員会 2019 「彦右エ門橋窯跡」『令和2年度宮城県遺跡調査成果発表会資料』
村田晃一 2022 「陸奥国中部における古代の館と有力者居宅（1）－大衡村亀岡遺跡の再検討を糸口として－」『宮城考古学』第24号



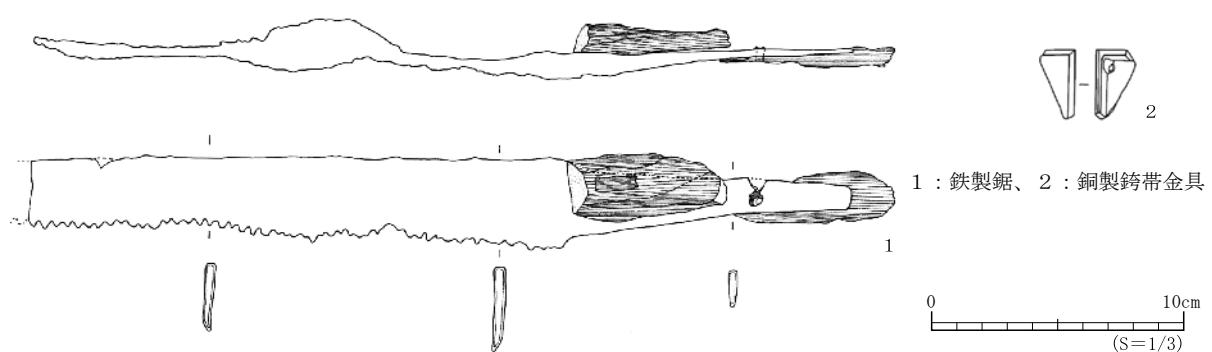
第2図 亀岡遺跡位置関係図（新規作成）



第3図 遺構配置図（大衡村 2019 に加筆）



第4図 主な土器・土製品 (東北学院大学考古研 1979、大衡村 1995 から作成)



第5図 金属製品 (東北学院大学考古研 1979 から作成)